

紅葉の森吉山紀行

6月から始まった「阿仁のレンド」で行く森吉山紀行も、多くの利用者でにぎわい、『紅葉の森吉山鑑賞』で今年の運行を終えました。森吉山の紅葉は10月初旬、山頂部から徐々に始まり、中旬から下旬にかけて最盛期を迎えました。お天気に恵まれた10月16日、森吉山を訪れたときのようすを写真でご紹介します。

▼ダケカンバ
亜高山帯に生える落葉高木。樹皮は赤みを帯びた灰褐色。積雪や強い風に耐えた樹形は独特です。



森吉山（1454 呎 県立自然公園）は、秋田県中央にそびえる独立峰です。

山腹はブナ林、標高1000 呎から山頂部まではアオモリトドマツの原生林が広がり、また、「花の百名山」として初夏から秋にかけて多くの高山植物が咲き誇ります。

秋には広葉樹が混生するブナ林特有の紅（黄）葉が山腹を覆い、ゴンドラから眺める景観は訪れる人を圧倒します。また、登山道脇の樹木や草花の色どりも目に鮮やか。まさに自然からの贈り物です。



▶ヤマウルシの幼木



◀マルバマンサク

登山道沿いを黄色く鮮やかに彩るのはマルバマンサク。早春、葉が開く前に4花弁の黄色の花を付けることでよく知られている樹木です。濃い緑はオオシラビソ（アオモリトドマツ）。

▲登山客でにぎわう森吉山頂（標高 1,454 呎）
晴れた日には360度のパノラマが楽しめます。遠くは八甲田、男鹿半島、鳥海山、近くには白神山地や八幡平、麓には鷹巣盆地や大館市の市街地が一望できます。



◀ハクサンシャクナゲ



◀ナナカマドの実
落葉後もしばらく枝に残り、初雪が山野を覆う頃になると、いつそう赤い実が目を引きまします。



▲紅葉する森吉山の南側斜面
ブナを主体とし、トチノキ、ナナカマドなどが混生するブナ林。県立自然公園として保護されている貴重な植生。ゴンドラからこの雄大な景観が一望できます。



▲ミヤマナラ
ミズナラの変種で、ブナ帯より高い場所で見られる落葉低木。ミズナラより葉が小さい。



▲アカミノイヌツゲ
初夏に白い花をつける常緑低木。赤い果実と緑の葉とのコントラストが鮮やか。



▲イワカガミの紅葉
光沢のある葉は「岩鏡」の名の由来。初夏に咲くピンク色の花は可憐。

▶エゾオヤマ（ノ）リンドウ
少し湿った場所に咲く花。紫がかかった独特の青色が美しい。花の時期が長く、森吉山でも8月上旬から10月下旬頃まで見られます。

